

(様式1)

令和7年度学校評価自己評価報告書および学校関係者評価報告書

高島市立本庄小学校

学校
教育
目標

校訓「たくましい子 本庄の心」

地域の願いや期待を受け止め、
自らの未来を切り拓こうとする意志と能力を
持つ子どもの育成

昨
年
度
の
評
価
概
要

・授業で全員の意見を引き出し、自分の思いを言える環境を整えている。
・駐在所の方が毎朝見守り、安心安全が保たれている。子ども達も温かい挨拶ができるようになった。
・学校・児童・学運協の熟議はあるが、保護者との意見交換がなく残念。地域やボランティア活動と結び付けられると良い。
・環境が変わっても信念を貫く教育とは何か。身近な大人のあり方を考え、卒業後も地域との関係が続く活動が望ましい。
・縦割り活動を増やし、上級生が下級生に優しく丁寧に接する姿を伝承してほしい。
・体験活動が多く、人とのふれあいから温かさを感じられる。
・子ども達が地域で活躍の場を得ていることは、人間形成にととても良い。
・児童との意見交換で、理由を添えて発言できる姿に感心。日々の学習の成果を感じた。
・読書時間の確保に加え、図書室に多様なジャンルの本を置き、興味や将来の夢につながる蔵書にしてほしい。

中
期
的
目
標

<中期的（3年間）目標>
○基礎学力の定着を図り、思考力・表現力を伸ばす
・自ら学ぶ力を高めともに学びを深める授業づくりを行う
○自ら考え、ともに学び合う力をつける
・自らの志を実現しようと努力する意欲を育てる
○豊かな心、たくましい体を育てる
・様々な体験を通して、心身ともにたくましい本庄っ子の育成を図る

評価項目（指導力点）	指標：到達目標（成果指標・取組指標）	達成状況(強い肯定の値)	評価	改善方策	学校関係者評価	
学力向上のための 力点	授業改善を通じて学習意欲を高める 「学習内容がわかる」65%以上 「意見の交流や深め合う授業づくり」 50%以上 「ICTを効果的に活用した授業の実施」 50%以上	○学習内容はわかる（児）（63%） ○意見の交流や深め合う授業づくりに励んだ（教）（9.5%） ○ICTを効果的に活用した授業の実施(教）（38%）	B	A	・家庭学習の習慣化に向け、取り組みやすい仕組みづくりと家庭連携を強める。 ・読書習慣を育てる新たな工夫を進める。 ・意見交流の良さを授業外の姿も含めて可視化し発信する。	・少人数を生かした指導で、授業にやる気と活気がある。 ・意見交流が授業の中で育っている。 ・ICT活用が興味関心を高め、探究的な学びにつながっている。 ・授業に対する教員の工夫が多い。
	家庭学習習慣の定着 「低学年20分、中・高学年10分×学年」 30%以上	○家での学習は、学年×10分以上している（児）（57.5%） ○お子さんは、決まった時刻に決められた時間が家庭学習ができていますか。（33%）	A			
	学校図書館活用の充実・読書週間の醸成 「読書が好きな子ども」50%以上 「親子読書実施率」 30%以上	○本を読むことが好きだ（児）（52.5%） ○親子読書の実施率（保）（29%）	A			
豊かな心を 育むための力点	個性を尊重し合い、人権を大切にするつながりづくり 「友達と協力して学習や活動ができる」60%以上 「クラスの友達のよいところを知っている」60%以上	○友達と協力して学習や活動ができた（児）（71.5%） ○クラスの友達のよいところや得意なことを知っている（児）（67.5%） ○子ども一人一人の持ち味を生かした学級作りができたか（教）（44.5%）	A	A	・家庭・地域・学校で、子どもの良さを認める視点を広げる。 ・自発的な挨拶ができるよう、家庭と連携して働きかける。 ・縦割り活動や行事の良さを日常の学びにつなげる。	・良さを認め合う姿が増え、否定的な言葉が減っている。 ・縦割り活動で協調性・自立心が育っている。 ・行事で一人ひとりが役割を担い、自己肯定感を高めている。 ・地域との関わりが深く、情操教育が充実している。
	様々な人と関わる経験ができる取組 「あいさつできる子ども」70%以上 「縦割り活動と地域交流の充実」70%以上	○あいさつをしっかりとっている（児）（70.5%） ○地域の力を取り入れた教育ができている（教）（76%） ○縦割り活動では、様々な学年と交流し活動できた（児）（71%）	A			
	自己肯定感を高める取組 「自分には良いところや得意なところがある」70%以上 「子どもの良いところを認めている」30%以上	○自分にはよいところや得意なところがある。（児）（70%） ○子どもの良いところを見つけ、認めている（保）（23.5%）（教）（64.5%）	A			
心身のたくましさ を 育むための力点	目標達成に向かって努力する児童の育成 「自己目標の達成に向けて努力できた」75%以上	○目標を持って取り組めた（児）（34%） ○活動や行事等で目標を持たせ、最後まで頑張るよう働きかけることができた（教）（55%）	B	B	・基本的生活習慣の定着に向け、明確な基準を提示し、啓発を進める。 ・野菜作り、食育などの体験活動を続けている。 ・JRC理念を再度意識化し、学校全体で取り組みを強める。 ・若い世代との交流を増やし、子どもの視野を広げる。	・野菜作りや食育などが体験活動が心身の成長につながっている。 ・地域との関わりを通して、地域の一員としての自覚が育っている。 ・JRC活動が主体性を高める機会となっている。 ・多様な大人との関わりの必要性が示されている。
	自発的で奉仕的な活動の推進 「学校をよりよくする気づきを実行できた」55%以上	○「気づき・考え・実行」することができた（児）（29.5%） ○JRC活動では、奉仕的な活動にもやりがいをもって取り組めるよう指導ができた（教）（33%）	B			
	基本的な生活習慣の定着 「『早寝・早起き・朝ごはん』の習慣」50%以上	○毎日早寝早起きして朝ごはんを食べている（児）（48.5%） ○お子さんは「早寝・早起き・朝ご飯」の生活リズムが整っていますか（保）（27.5%）	B			
安心・安全な 学校づくり	自分の命は自分で守ろうとする意識の向上 「自他の安全を守る意識を持てた」60%以上 関係機関と連携した安心安全な学校づくり 「避難訓練等で効果のある関係機関との連携」50%以上	○こども安全点検で自分も周りの人もけがががないように意識することができた。（児）（59.5%） ○避難訓練や子どもたちの安全を守る研修で効果ある連携ができていたか。（教）（50%）	A	B	・居場所づくりを充実させ、支援が必要な児童への対応を整える。 ・教職員の負担軽減に向けた体制を検討する。 ・体育館の雨漏りなど施設改善を進める。 ・校内の安全意識を継続的に高める取組を続ける。	・困ったときに寄り添う教職員の姿があり、学校が楽しいと感じる児童が多い。 ・駐在所や地域の協力で外部の安全が確保されている。 ・校内の安全は教職員の連携と日々の指導で支えられている。 ・子ども自身が安全に関わる取組ができています。
	安心できる学校づくり 「学校は、安心できる場所だ」65%以上 「居場所のある学級・学校づくり」50%以上	○学校が楽しい（児）（70.5%） ○こども一人一人居場所のある学級づくりができていたか。（教）（32%）	B			
つながり響き合う 教育の推進 (縦と横のつながり)	地域・保護者との協働推進 「教育活動について理解が図れる広報ができていたか」 「学校地域連携カリキュラムの活動」70%以上 「本庄が好きで誇りを持っている」70%以上	○子どもの様子がよくわかり、学校経営、学級経営について理解が図れる通信やHPとなっていたか（保）（46%） ○地域に愛着と誇りが持てるよう教育活動を設定し、工夫することができたか。（教）（64.5%） ○本庄が好きで誇りを持っている（児）（69%）	B	B	・教職員の働きやすさを高め、負担軽減の環境整備を進める。 ・「地域への誇り」の意識の低下の理由を分析し、学びの意味づけを深める。 ・多様な大人とのつながりを広げ、未来を描ける環境を整える。 ・地域課題を子どもが考える学習を取り入れ、主体的な地域理解を促す。	・地域資源を生かした活動が充実し、地域と学校が連携している。 ・子どもと地域の関わりが日常的で、地域に根ざした学びが実現している。 ・子どもの声を生かす取組が行われている。 ・地域課題を学びにつなげる視点が育っている。 ・児童数減少を踏まえ、統合の可能性を含め将来像を検討するべきではないか。
	小中一貫教育の推進 「小中合同の研究授業の効果を感じている」30%以上 「児童が中学進学への不安を感じていない」30%以上 「中学校等を意識した系統的な指導」40%以上	○中学校進学への進学が楽しみだ（児）（88%） ○小中合同の研究授業の効果を感じている（教）（11.5%） ○他学年や中学を意識した系統的な指導の展開(教）（30%）	B			

学校
関係
者
評
価

・3年生以上で継続して取り組んでいる自主学習は、子ども達の自主性を育てる良い取組である。
・子どもに関わる大人の層が高齢者に偏りがちなため、若い世代との交流機会を広げ、多様な価値観に触れられる環境づくりが必要である。
・学校統合は望まないが、将来を見据え、他校との合同学習などの機会を持つ必要性がある。
・「たくましい子」の育成について、熱中症リスクや練習期間の短縮など現状を踏まえ、体を動かす楽しさを重視した体育の指導が必要。
・教職員アンケートの結果は低めであったが、学校の実際の努力は高く評価されている。教職員が自信を持てる環境づくりが必要。
・地域の課題（コンビニがない理由など）を学習に生かすことで、地形・人口・産業など多面的な学びにつながる可能性がある。
・JRC活動は以前ほど目立った動きではないが、子ども達が主体的に継続できる形へ改善されていることを理解した。

評

B

評

定

学校関係者評価を踏まえての改善点

●3年生以上で継続している自主学習をさらに深め、学年に応じた課題設定等を工夫する。
●地域の方々との関わりは、本校の学びの大きな強みであり、子ども達が地域の温かさや課題を実感する貴重な機会となっている。そのうえで、高齢者だけでなく若い世代や多様な職業の大人との関わりも広げ、子ども達の視野をさらに広げていく。
●統合の是非に関わらず、他校との合同学習など柔軟な学習形態をとれるようにする。
●地域課題を生かした学習を推進する。「コンビニがない理由」など子どもの身近な疑問（地域の課題）を教材化し、地域の地形・人口・産業を学ぶ探究活動へつなげる。
●熱中症リスク等を踏まえつつ、体を動かす楽しさを重視した体育を進め、体力づくりの工夫をする。
●JRC活動では、「気づき・考え・実行する」に加えて「継続する」を取り入れ、子どもの思いを大切にしながら、主体的な活動が続けられるよう支援していく。
●児童が中学校進学に対してより前向きな気持ちを持てるよう、中学生との交流の場を増やす取組をさらに工夫・充実させる。

4段階評価（A 目標を十分に達成 B ほぼ目標を達成 C やや不十分 D 改善を要する）